

「大きく育つて」

一ツ瀬川で稚アユ放流

新佐漁協

新富町と宮崎市佐土原町の一ツ瀬川水系漁業者でつくる新佐漁協（関屋卓三組合長、920人）は27日、同川にアユの稚魚約1万1400匹（76㌔）を放流した。

稚魚は7〜8㌔で、綾町の業者が3カ月間育てたもの。漁協組合員らが、新富町伊倉の柳瀬大橋下の河川敷から稚魚をバケツやホースで放流。飛び出した稚魚は勢いよく川



アユ稚魚を放流する新佐漁協の組合員ら

に泳いでいった。稚魚は上流に向かい、アユ漁が解禁になる6月には体長約15㌔に成長。10月には約20㌔に太り「落ちアユ」と呼ばれ、釣り客を喜ばせる。同漁協は、資源保護と増殖を目的に毎年放流しており、今回

は同漁協の受託分。同漁協は、これまでに県内水面振興センターの受託分7万8100匹、県の受託分2万6千匹を放流している。

関屋組合長は「川の濁りが少ないので大きく育ってくれ」と思う。台風などで濁水が発生しないか心配だ」と話していた。